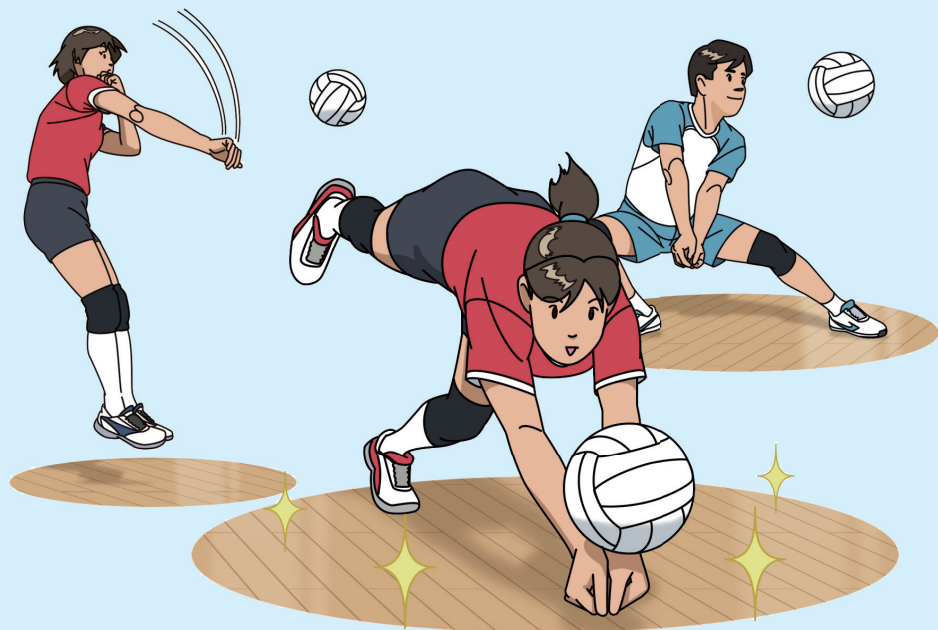


2018 年度版

公益財団法人日本バレーボール協会

アリーナ〈体育館〉 木床使用 における ハンドブック



はじめに

バレーボール競技は、国民のだれしものが安全で気軽に楽しめるスポーツとして誕生しました。人と人とがぶつかり合う激しい競技とは違い、ケガの少ない競技特性があるスポーツであるということがいえます。

ところが、平成 29 年 5 月に消費者庁からの「体育館の床板の剥離による負傷事故」レポートの中で、バレーボール競技者の事故事例が 7 件中 6 件（平成 18 年～27 年）確認され、それらは、フライングレシーブなどで床に滑り込んだ際に発生したと公表されました。また、最近では国内大会開催中や代表選手の練習中にも木床の剥離・ささくれによる同様の負傷が続いて起こってしまいました。公表されている事故事例だけに限らず、負傷されている実態も推察されます。そのようななか、できる限り事故を減らし、楽しくバレーボール競技を行うためにも、木床の維持管理における知識は不可欠です。

本ハンドブックの内容は、アリーナ（体育館）の木床を使用する方、管理する方へ向け、①「木床事故の予防のために知っておきたいこと」、②「正しいモップがけ」、③「木床のチェック方法」、④「危険箇所をみつけたときの対処方法」、⑤「木床使用上の注意点」についてまとめています。次には、施設管理者の方へ向けて①「点検法」や②「ささくれの処置方法」、③「経年的な対応」について、図表を用いて簡潔に説明しています。競技者の皆さま、および施設管理者の皆さまに向け、より実効性のあるものとしたしました。

いまやバレーボールは、アリーナスポーツとして多くの競技者や愛好者に親しまれ全国のいたるところでさかんに行われています。本ハンドブックが、皆さまがより安全にますます楽しくバレーボール競技を実践いただく一助になれば幸いです。

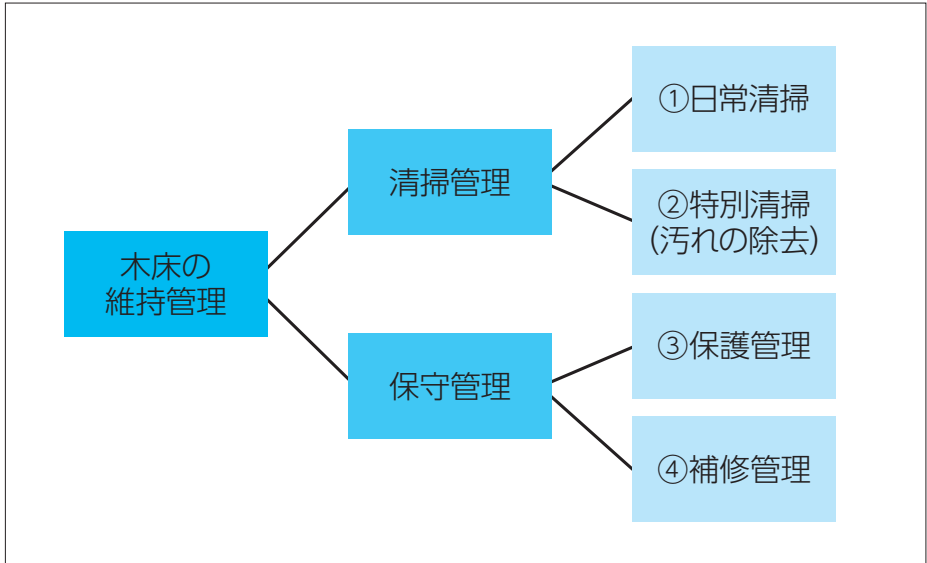
1 木床事故の予防のために知っておきたいこと

木床の剥離・ささくれによる事故を未然に防ぐために、必ず守らなければならない事項に次の3点があります。

1. 清潔であること
2. 床表面の光沢、すべり等が快適な状態に保持されていること
3. 破損および摩耗箇所が放置されていないこと



これらの3点は、2通りの清掃管理と、2通りの保守管理により、安全な木床の維持管理ができることとなります。



①日常清掃は、体育館用モップによる正しいモップの使い方により、体育館の使用前と使用後に行います。

②特別清掃（汚れの除去）は、定期的に3～4回／年を行います。日常清掃で取りきれない頑固な汚れを除去します。

③保護管理は、水分・土砂・ワックス類の持ち込み禁止、土足厳禁、出入口に大型の足拭きマットの設置、重量物の運搬設置制限などの管理を行います。

④補修管理は、床金具の浮き、床の破損・滑り過ぎなどの補修を行います。

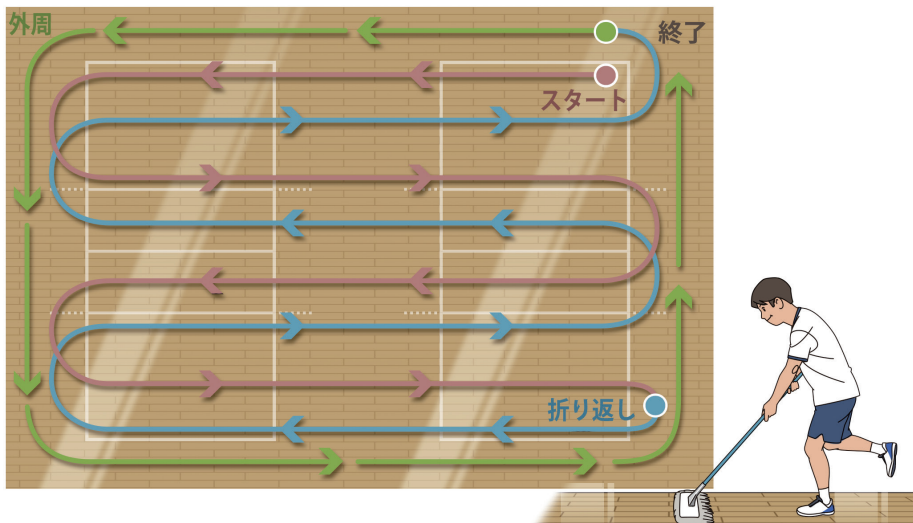
以上が安全な木床を管理する上での大まかな遂行事項です。

バレーボール競技で木床体育館を利用する皆さまには、まず、日常清掃でもっともよく利用されるモッピングについてその正しい清掃方法を解説します。

② 正しいモップがけ

● ゴミやホコリをすべて除去

ゴミやホコリを落としたいきれいなモップで、木床の長手方向に沿いながらモップを掛けます。図のようにフローリングの縦方向往復しながら、繰り返しモップを掛けます。最後に体育館の外周部を回り、床面のゴミやホコリのすべてを除去するようにします。



● 使用前と後に

体育館のゴミやホコリは、使用中に空中に舞ったものが、閉館後に一晩かけて床上に降り積もることになります。ですから体育館を使用する直前に実施するのが効果的といえます。もちろん使用中に髪の毛やゴミ、ホコリが生じますので、使用後も欠かさずモップ掛けによる清掃を心がけましょう。



★使用責任者、施設管理者の方へ

- 木床清掃用モップは、乾拭き用の綿モップを使用します。柄とモップ部分の首が固定され、厚みのある幅広（幅 600 ～ 1200mm 程度）タイプで、艶出し剤を含んでいないものを選びましょう。※ホール用モップ（主に黄色のモップ）は、木床清掃には適しません。
- すべての清掃実施者で統一した清掃方法を周知徹底できるように、適切な清掃方法について、一目でわかりやすいように書面化しておくといいでしょう。

③ 木床のチェック方法

● 使用前のモップ掛けと低い姿勢の目視

体育館使用前のモップ掛けにより、ゴミやホコリを取り除きながら、ひっかかり等がないか、あるいは目視により木床の不具合を確認します。

また、使用前には必ず使用者(選手や指導者)により、膝をつけた低い姿勢で様々な角度から目視により、床の不具合等がないか、以下のようなチェックリスト(サンプル) に則り、十分な安全確認を行います。

● 木床、施設・用具 **チェックリスト** (サンプル)

確認	チェック内容
	床面が滑り過ぎないか
	床面のグリップが効き過ぎていないか
	床面に傷・割れがないか
	床面に反り・浮き・目違い(段差)がないか
	床面の木栓(だぼ)の浮き・抜けがないか
	床鳴りするところがないか
	金具の緩み、浮きなどがないか
	器具のぐらつきなどはないか

★使用責任者、施設管理者の方へ

- このようなチェックや点検を日常的、定期的を実施し、その実施した点検記録表を作成して保管しておきます。またこの記録表を保管する責任者を定めておくことで、木床の安全管理を確実かつ恒常的に行うことにつながります。

4 危険箇所をみつけたときの対処方法

● 利用の停止

チェックリストにより木床に不具合が生じている場合は、事故につながることを考えられますので、安全が担保される状態に修復することが望めます。それができない場合は、体育館の危険箇所における使用を停止します。

● 不具合箇所のマーキングや記録

木床に異常がある箇所には、テープ等により目で分かるようにマーキングを施します。また木床の不具合を把握した場合には、写真を撮影する等の方法で不具合の内容を記載し、その位置や箇所数も合わせて記録し、施設管理者に報告します。

● 施設管理者に報告

木床の不具合がある場合には、必要に応じて施設管理者へ早急に連絡します。木床の不具合が大きくなるために損傷を早期に解決することは重要です。ささくれ等の損傷であってもガムテープ等で覆うのではなく、施設管理者へ速やかに報告し、修繕してもらった方がいいでしょう。

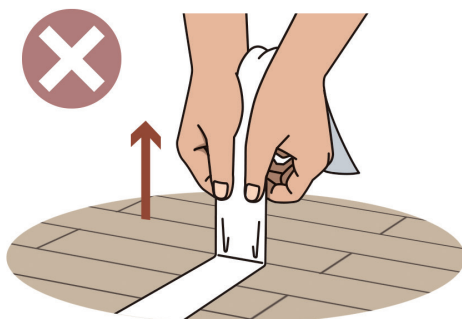
新しい体育館でも木床の事故報告がありますので、不具合を発見した時には、すぐに施設管理者へ連絡し、修繕を求めます。



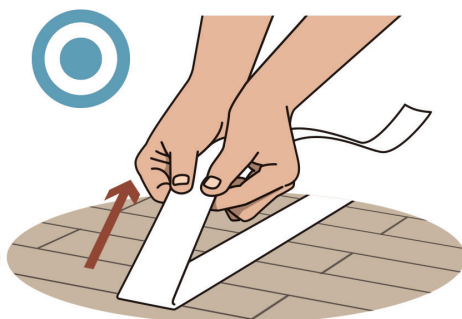
5 木床使用上の注意点

木床にダメージを与えないために、その対処法を次の表にまとめました。ここに示したように対処されることで、木床の損傷をできるだけ少なく防ぐことができます。

日常清掃	木床表面の土砂、ホコリ、ゴミ、汚れを取り除き、いつも清潔に保ちましょう。体育館使用後に、一晩かけて空中に舞ったホコリなどが木床に降り積もるため、日常の清掃は体育館を使用する直前が効果的です。
水拭き禁止 ワックス掛け禁止	水拭き、ワックス掛けは木床の不具合発生の観点から行わないでください。
水分補給用の容器、 ペットボトルの持ち込み	木床への直置きは厳禁です。必ず防水マット等を併用し、水分が木床に浸み込まないようにしてください。
ラインテープ	粘着力の強いものを避け、弱粘着性の専用ラインテープを使用してください。また貼りっ放しは厳禁です。剥がし方は手元に手繰り寄せるようにし、勢いよく引っ張り上げないようにしてください。
椅子や机、 器具を置く場合	フロアシート（養生シート）を下に敷く、または椅子や机等の脚にフェルト、布などの柔らかいカバーを被せて木床を保護してください。
ネット支柱を立てる際	ネット支柱周りの木床を傷めないために、スムーズに支柱を挿入できるよう2人以上で作業しましょう。
体育館専用シューズ （上履き）着用	土足での使用は細かい砂や砂利で木床にダメージを与えるため禁止です。
ワックス剥離洗浄作業 の禁止	ワックス除去専門の洗浄マシンは、大量の水を使用するため禁止してください。
体育館出入口に 土足用マットを敷く	屋外の土砂の進入や油脂、ワックス等が靴底に付着したまま入ってしまうことを防ぐために、毛足の長い大型のマットを出入口に敷くことが最も効果的です。



勢いよく引っ張り上げるのはダメ！



ゆっくりと手探り寄せるように剥がす

本章では、施設管理者の皆さまへ一般的な点検法やささくれの応急処置、および経年劣化について、簡単にまとめています。

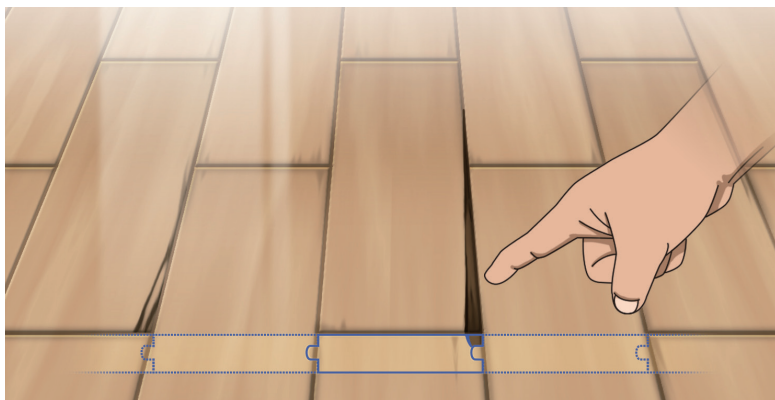
① 点検法（日常点検、定期点検）

日常点検、定期点検を軸として行い、使用者にも協力を仰ぎ、損傷を早期に解決することが望ましいです。修繕は、できるだけ施設管理者の責任のもと行うように心がけていただきたいと思います。修繕とともに損傷の原因を取り除くことで再発を防ぐことができます。その原因が分かり次第、その除去に努めてください。

② ささくれの処置方法

ささくれを発見した場合は、その反対側よりカッターナイフ等で削り取るように処置してください。そのまま放置しておく、微細振動により隣り合う床板と摺れが生じ、ささくれから割れに発展してしまいます。

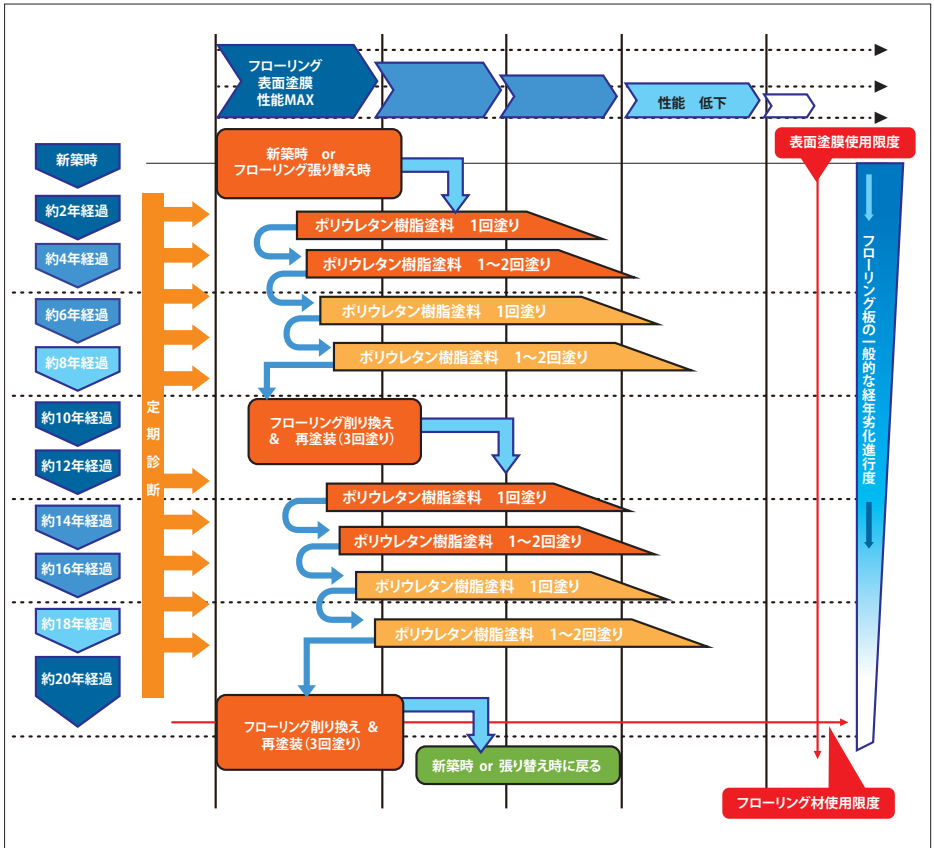
かなり進展してしまったささくれや割れは、ピースまたは床板の張り替えが必要になります。ここで重要なことは、新品の床板に張り替えた後は、既存の床板と高さを合わせるためのサンディングが必要になります。また、雌実割れ（接合部分の割れ、欠け）が散見される木床は、それ自体の耐年数が過ぎていることを表しています。



雌実割れが多く見られる木床は耐年数が過ぎている

3 経年的な対応

一般的な体育館の木床性能の経年劣化は、適切な日常清掃や定期点検、補修を行うことで、その性能を維持し長寿化を促進することが可能になります。イメージ図を示しておりますのでご参考ください。



お わ り に

体育館の床板の剥離による負傷事故の防止においては、体育館使用者と施設管理者の双方がその状況を常に把握し情報交換をすることで、安全性をより向上させることができます。日頃からそれぞれが適切に維持管理に取り組むことで、安全に楽しくバレーボール競技が実践できるように、本ハンドブックをご参考くださるようお願いいたします。

発行／2018年3月31日
公益財団法人 日本バレーボール協会
協力／孝和建商株式会社

イラスト／庄司 猛



**JAPAN
VOLLEYBALL
ASSOCIATION**